

災害への備えは？ されていますか？

9月は防災月間です。

東日本大震災をきっかけに、大災害に備えた対応マニュアルについて検討されるお客さまも増えてきているのではないのでしょうか。当社の加盟するEPC-JAPANでも、被災経験から学んだ内容を基に、災害発生時の対応などをまとめた防災手帳を作成しています。

そのノウハウを活かし、皆さまの防災マニュアル作りなど、事業継続を守るお手伝いをいたします。

災害対策マニュアル

組織のトップはもちろん、各部門や部署の責任者も常備。災害発生時の対応など必要事項を整理して、組織内で統一した動きを周知できます。

御社の防災マニュアルづくりのお役に立ちます！

EPCグループ会社が3.11の実体験をもとに「防災手帳」を作成しました。ここでは東日本大震災の経験から得た、必要な対応ノウハウがつまっています。「手帳」という形式にしたのは、手帳自体が日常で携帯できる「防災グッズ」になる、という発想からでした。

地震直後の対応、津波への対応、防災グッズ、企業での防災、避難の仕方、閉じこめられたら……など、体験に基づいてまとめた対応の仕方が記載されています。ぜひご参考にして下さい。



誌面例1 > 防災手帳

<p>企業での防災</p> <p>● 予測される危険を考える</p> <p>● 備えは日中とは異なります。懐中電灯を職場の定位置に設置。いつも持ちまわった場所にあることが大事です。</p>	<p>元栓を閉める、ブレーカーを落とす</p> <p>● 「ふだんから複数場所にデータのバックアップを取る」などの対策しておき、被災時にはブルーシートなどで機械をおおって、洪水やモノの高下から守りましょう（生産機材なども同様）。</p>
<p>目を守る</p> <p>● 落下物から頭を守りましょう。揺れの激しい場合は机の下などになり、揺れが収まるまで様子を見ましょう。</p>	<p>パソコン（データ）を守る</p> <p>● 精密機器の場合、体や安全性を考慮して避難させず、オフィスや安全な避難所まで様子を見るのがベターです。● 避難する場合は、安全を確保しながら避難。途中で無理になった場合、近くの避難所やコンビニ、カプリンスタンドなどに避難。</p>
<p>足を守る</p> <p>● 震動時にはいるものが職場に散乱し、危険です。移動時の足元に注意。サンダルや高足靴、拖鞋、スニーカーなどで移動しましょう。</p>	<p>出入り口を確保する</p> <p>● 被災時にモノが散って出入り口がふさがれてしまうと、避難できなくなります。あらかじめ出入り口にはモノを置かないようにしましょう。</p>

ポイント会話ボード ポケットサイズ

聴覚に障害のある方が情報に取り残される事態を防止。EPCグループ会社では、震災の2年前に福島にある聾学校の生徒や聴覚障がい者に配布しています。



誌面例2 > 災害対策マニュアル

地震がおさまったら
安全確認と情報収集

社員の安全確認

● 社員の安全確認は、まず自分自身から行い、周囲の社員を確認する。● 安全確認が完了したら、安全確認の状況を上司や関係者に報告する。

社員の安全確認

● 社員の安全確認は、まず自分自身から行い、周囲の社員を確認する。● 安全確認が完了したら、安全確認の状況を上司や関係者に報告する。

情報収集

● 災害発生後は、ラジオやテレビ、インターネットなどで最新の情報を収集する。● 関係機関からの連絡を待つ。● 関係機関からの連絡を待つ。

携行品チェックリスト

- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- 笛・ホイッスル
- 帰宅支援マップ

備蓄品リスト

- 3日分の水・アルファ米、乾パン、レトルト食品など
- 毛布 □ 長靴 □ 工具セット
- はうき・ちりとり
- ウェットティッシュ・ティッシュペーパー
- 簡易トイレ □ 紙皿・紙コップ・割り箸
- ロープ □ 給水用ポリタンク

お役立ちグッズ

名入して配布できるノベルティです
詳しくは担当営業にお尋ね下さい。

